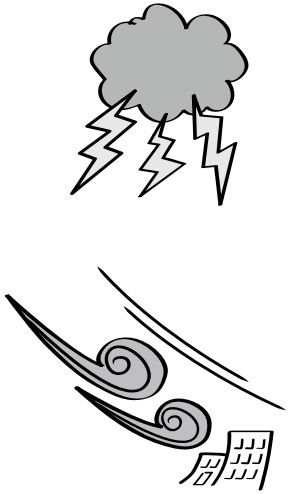
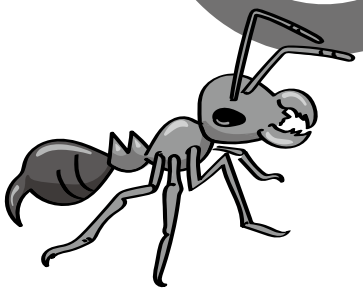
# 行ってはいけない



編著 西谷 文和

# 大阪危険万博



せせらぎ出版

# はじめに

「えーやん、たまに落ちたって（笑）」

25年1月3日の朝日放送「辛坊治郎の万博ラジオ」。吉村洋文知事を生出演させ2人で「万博トーク」をするのだが、一向に盛り上がらない万博に焦ったのか、辛坊は「今からでも『空飛ぶクルマ』を復活させよ。安全性がどうのこうの言うな。覚悟決めて乗ってもらったらええ」とのたまった。そして冒頭の「えーやん、たまに落ちたって」を、笑いながら言ったのだ、公共の電波を使って。「それやったら、まずお前が乗れ！」ラジオに向かって叫んだのは私だけではないだろう。

ちなみに「空飛ぶクルマ」は万博の目玉として吉村が盛んに宣伝していた。23年8月6日、吉村は広島で平和記念式典が開かれているその日に関西コレクションにモデルとして出演。そこで「万博では『空飛ぶクルマ』が自転車のようにぐるぐる回っていますよ」とウソをついていた。単なるヘリコプターである「空飛ぶクルマ」は安全性が担保されずに、万博では商業運転されないのだ。当たり前だ、もし落ちたら乗っている人も、下を歩いている人も死亡する。吉村がクルマと呼んでいる「ヘリコプターのようなもの」が実用化されるのは、まだまだ先。

このように大阪万博側にいるのは、人命軽視、無責任、権力にすり寄る太鼓持ちのような人物ばかりだ。生出演した吉村のコメントも酷い。「大屋根リングを見るだけ、上るだけでも来た値打ちがある」「これから入場チケットは間違いなく売れていく。大丈夫」「（ＵＳＪやディズニーランドと比べて）万博は安い、安すぎる」

アホである。25年1月時点で売れたチケットは７６１万枚。目標である２３００万枚の半分以下、それも大半の７００万枚は企業に押し売りした分なので、一般では数十万枚しか売れていない。この点は2人も気になっている様で「ネットでは買いにくい。特にお年寄りはスマホが苦手、私は紙のチケットを買えるようにねじ込んだ」と吉村。この「紙チケット」は約20億円の手数料をかけてコンビニなどで買えるようになったのだが、売れたのは25年1月時点でわずか5千枚。1枚あたり約40万円の手数料！「そんなん、ねじ込むな！」。ラジオに向かって叫んだのは私だけではないだろう。

2人は「万博で世界の料理が買い食いできます」とも。メタンガスが噴き出す万博会場では原則火気厳禁。「お前らだけ、生肉、生魚食べとけ！」。ラジオに向かって…。正月早々、血圧が上がる上がる（苦笑）。

こんなアホ話を公共の電波で放送する朝日放送も同罪だ。一向に盛り上がらない万博に業を煮やした政府と大阪府市は、機運醸成費（ＰＲ費）を29億円増額し、69億円にすると発表した。これでまた税金を使ってミャクミャクがあちこちに貼られていくのだが、大手メディアにとってもおいしい話。24年末には朝日新聞が全面カラー広告「ミャクミャクすごろく」を見開きで掲載した。この広告だけでウン千万円もするだろうし、税金なので値引きも取りっぱぐれもない。

ちなみに2人は「リングに上って見る夕日がきれい」「一周2キロのリングでマラソン大会をやったらいい」と大屋根リングをしきりに宣伝していた。裏を返せば「パビリオンに魅力がない」ということ。万博の華と呼ばれる諸外国が建てるタイプAは次々と撤退、あるいはプレハブのタイプB、C、Xに引っ越しする始末。空き地が増えるので、そこに「世界最長の回転寿司」を置くという。やっぱりアホや。1周135メートルの回転寿司、一周回ったら「カッパ巻カピカピ」(笑)。こんな万博に誰が行く?

だからチケットが売れない。今後はもっと売れなくなるだろう。なぜか? 押し売りされた企業が顧客にプレゼントする。心斎橋の大丸は抽選の賞品にしている。おそらくチケットをもらった人は街の金券ショップで換金する。開幕直前の4月には「万博前売りチケット6千円が6百円!」(笑)という看板が出ると予想する。あまりにもアホらしい大阪万博だが、笑ってばかりもいられない。赤字のツケは6ヶ月後に税金でむしり取られていくのだ。こんなアホ祭りは即刻中止しかない。

「でもここまで来たんやから、開催せなしゃーないやん」。よくそう尋ねられる。いや、解体費用も税金なので「作れば作るほど金がかかる」。すぐに工事をやめたらその分だけ傷が浅い。日陰のない会場で暑い夏の開催、集団熱中症でバタバタ倒れるかもしれないし、メタンガスの爆発があるかもしれない、そして雷はリングに落ちる。何より豪雨や地震が来たら帰れない。だから本書の題名を「行ってはいけない、大阪危険万博」とした。しかし私が本当に言いたいのは「維新が好きで、危険を承知で行きたかったら、行きなはれ」

本著で強調したいのは「子どもを遠足や修学旅行で連れて行ってはいけない。行きたくない人まで巻き込むな」である。行く自由は保証するが、行かない自由もある。本当は「行かせてはいけない」なのだが、過去に「買ってはいけない」「知ってはいけない」などの著作が出ていたので、この題名にした。ぜひ最後までお読みいただき、この本を拡散してもらいたい。アホ祭の中止、閉幕後に予定されているアホ博打場の中止、そして何より税金は今困っている人へ、つまり能登を見殺しにするな、万博やめて復興を。この運動を広める一助にしていただければ幸いである。

2025年1月

西谷文和

※このはじめにを含め、本文中敬称略

# 目次

はじめに ……2

第1部　再検証――万博の危険、まやかし、ムダ

PART・1　行ってはいけない10の危険

【警鐘】ジャーナリスト　西谷 文和 ……11

行ってはいけない　その1　熱中症 ……13
行ってはいけない　その2　ヒアリなど ……15
行ってはいけない　その3　落雷 ……17
行ってはいけない　その4　メタンガスなど ……19
行ってはいけない　その5　帰宅困難、下手すれば野宿? ……21
行ってはいけない　その6　健康データを盗まれる ……24
行ってはいけない　その7　台風と線状降水帯 ……26
行ってはいけない　その8　地震と津波 ……28
行ってはいけない　その9　イスラエル館 ……30
行ってはいけない　その10　カジノ建設への道 ……32

PART・2　大阪・関西万博の〝経済効果〟なるもの

【論考】阪南大学教授　桜田 照雄 ……37

万博を夢洲で開催する意図はどこにあるのか ……38
USJの4倍にもなる2820万人という来場者計画 ……40
過大な集客目標が過大な公共投資を呼ぶ ……41
公表された経済波及効果に潜むまやかし ……43
費用対効果をうたって住民合意を形成 ……46
必要なのは大阪の産業構造に合わせた中小企業支援 ……47
大阪経済低迷の真の原因は市民・府民の低収入 ……49
万博で潤うのは建設、交通、宿泊だけ ……52
懸念される深刻な自治体財政危機 ……53

万博後、大阪はいったいどうなってゆくのか……54
おわりに……57

PART・3　工事現場に重ねて見える、閉幕後の壮大な廃墟
【ルポ】ジャーナリスト　西谷 文和……59

第2部　まだまだ続く問題追及

PART・4　人間の尊厳を軽視して突き進む無責任万博
【対談】建築家　山本 理顕……69
大屋根リングのアイデアはあの安藤忠雄なのか？……70
設計者を選定するプロセスからして不透明……73
会場デザインプロデューサー、藤本壮介の罪……81
そもそものコンセプトに潜む危険思想……83
人間洗濯機もiPS臓器も尊厳無視の所産……87

PART・5　維新政治が積み重ねてきた大阪万博のウソとムリ
【対談】おおさか市民ネットワーク代表　藤永 のぶよ……91
350億円の大屋根リングは始まる前からクロカビだらけ……92
天変地異は起こらないよう祈るしかない脆弱な防災計画……97
熱中症、水質、メタンガス、ヒアリ……まだまだあるリスク……101
万博赤字の補填は公共サービスを削って貯めた税金で？……106
夢洲カジノに大阪市民が突きつける6つの裁判……109
このままでは利権政治のツケが大阪市民に……115

PART・6　このままでは関西の民主主義がぶっ壊れる
【対談】日本城タクシー社長　坂本 篤紀……119
万博ルール作ってライドシェア導入。タクシーは足りている！……120
赤字にはならないと根拠なき確信を語る吉村知事……123
たまに落ちてもええから飛ばせ。僕は乗らへんけど……129
万博ビジネスの周辺にうごめく当事者意識のない人たち……132

ネズミ講的選挙ビジネスを展開する立花孝志……137
維新の議員はほとんどみんなミソジニー体質……141
詐欺師たちが跋扈する異常事態を正せ……147
おわりに……153

第1部

## 再検証―万博の危険、まやかし、ムダ

PART. 1

## 行ってはいけない10の危険

警鐘 ジャーナリスト 西谷 文和

まず、どんな危険があるかをリストアップしよう。
次のとおりだ。
いずれも絵空事ではなく、リアルにあり得る。
大人ももちろんだが、子どもたちを絶対に「行かせてはいけない」

**その1　熱中症**
**その2　ヒアリなど**
**その3　落雷**
**その4　メタンガスなど**
**その5　帰宅困難、下手すれば野宿？**
**その6　健康データを盗まれる**
**その7　台風と線状降水帯**
**その8　地震と津波**
**その9　イスラエル館**
**その10　カジノ建設への道**





## 行ってはいけない　その1　熱中症

急速に進む地球温暖化。アメリカやオーストラリアでは山火事、アジア、ヨーロッパでは豪雨による水没。大災害が頻発している昨今、トランプ大統領が「グリーンランドをよこせ！」とデンマークに迫っている。あれは北極海の氷が溶けて、アジアと欧米を結ぶ最短航路が開けていくからである。

24年9月、アメリカCNNは「世界平均気温は観測史上、最高を記録した」と発表。23年も歴代最高だったので2年連続の記録更新。おそらく25年の夏も記録を塗り替え3年連続となるのはほぼ確実だ。

そんな中でも大阪の夏は特に暑い。緑が少なく、ビルが立ち並ぶ街に「ヒートアイランド現象」が起きるので、沖縄の那覇市よりも暑い夏になる。大阪万博は4月から10月の開催で、開催期間中は「ほぼ夏」だ。10月から翌年3月、冬のシーズンに開催したドバイに比べても、「時代の流れを読まないアホ祭り」である。

「この時期の東京は温暖です」。オリンピック招致の際、猪瀬直樹知事（当時）が演説してひんしゅくを買っていたが、今やこの猪瀬も維新。先を読めないアホ政治家によるアホ祭りのため、人命が危険にさらされる。

「全日本病院協会みんなの医療ガイド」によれば、熱中症は体温が急に上昇し、水分・塩分のバランスが崩れたり、体温調整ができなくなったりして、めまいやケイレン、頭痛などに襲われた状態を

いう。「意識を失ったり、呼びかけに対する反応がおかしかったりする場合はすぐに救急車を呼びましょう」。ガイドはわざわざこの部分を赤字にして安全を呼びかけている。

しかし、万博には救急車は来ないのだ。夢洲へのアクセスは橋とトンネルだけ。予定どおりなら1日平均15万人の来場者。渋滞を起こしているので救急車が来たときにはおそらく手遅れ。では会場内の救護施設に運ぼう。救護施設は8か所あるが医師が常駐しているのは3か所だけ。ベッド数は？　万博協会に尋ねても答えない。まだ未定なのだろう。熱中症は集団で罹患する。すぐに点滴を打つ必要があるが、ベッドも看護師も医薬品も足りなければパニックになってしまう。万博協会はこのまま手をこまねいて見殺すつもりなのか？

医療ガイドには「こんな人は特に注意！」の項目がある。曰く、乳幼児や高齢者は特に気を付けましょう。乳幼児は大人よりも体温が高く、汗を出す汗腺の発達が未熟なため、体温調整がうまくできません、とある。吉村知事は記者会見で「4歳から高校3年生までを招待したい」と述べた。幼稚園児や小学校低学年の生徒たちを強制的に遠足で連れて行き、バタバタと倒れる事態になったら、誰がその責任を取るのか？　藤永のぶよさんが大阪市教育委員会に尋ねたら「責任者は校長先生になります」

ちょっと待て！　ほとんどの学校現場が万博遠足に戸惑い「できれば連れて行きたくない」と考えている。なぜ行くかといえば、ズバリ維新の圧力。知事と市長、市議会と府議会のすべてを維新に牛耳られている大阪では、「万博関連予算」はさっさと通ってしまう。ちゃんとした情報を伝えず、遠足の下見は開幕直前の4月に入ってから、そして事故が起きれば現場の先生に責任を転嫁する。「来場者数をカウントしたいだけ」で無理やり連れて行かれ、命の危険にさらされる子どもたちが一番の被害者、もし事故が起きれば責任を取らされる校長と引率の先生が2番目の被害者ということになる。

万博会場にはほぼ日陰がない。駐車場から大屋根リング、つまり日陰にたどり着くまで小学校1年生の足で歩いて約30分。「水は？　水は飲めるんですか？」という切実な質問に、協会は「水筒を複数持たせてください」「売店で水は売ってますか？」「はい、売ってます。しかし万博はすべてキャッシュレスです」。ノーテンキな万博協会、この寄せ集め集団は、事故が起きてもその責任を取らずに逃げていくだろう。私たちに何ができるのか？　それはあらかじめ危険を避ける、つまり「行かないこと」である。

## 行ってはいけない　その2　ヒアリなど

24年6月、夢洲にヒアリが約550匹発見され、すべて駆除したと報道された。ヒアリに刺されると文字どおり「火が着いたような痛み」を発症し、アメリカでは毎年約100人が死亡するという。別名「殺人アリ」とも呼ばれるヒアリがなぜ夢洲に？　その答えはコンテナヤード。大阪湾の埋立地である夢洲や咲洲には、常に諸外国からの大型船がやってきて、荷物の積み下ろしが行われている。

万博会場から道路一本隔てた夢洲4区には大きなトラックターミナルがあり、無数のコンテナが積んである。このコンテナに忍び込んだヒアリが外に出てきて、おそらくすでに定着しているのだと思われる。

ヒアリの根絶は不可能で「ヒアリ前提の万博」になる。今まで夢洲は無人島だったので人的被害は出ていない。このままそっとしておけばいいのに、1日平均15万人を集める「アホ祭り」を開催し、祭り会場の中心に「静けさの森」を作る。ヒアリは日当たりのよい開放的な場所に好んで巣を作り、水辺を好む。「静けさの森」には池もある。繁殖のために人の血を求めるヒアリにすれば、格好の場所である。

ヒアリだけではない。かつて日本各地でセアカゴケグモが出た！と話題になったが、あれも外来生物で原産地はオーストラリア。デング熱はネッタイシマカに刺されることによって発症する。昆虫だけではない、夢洲にニシキヘビが出た！ヌートリアがいる！など「なんでこんな動物がここに？」と首を傾げるような場所、それが夢洲だ。

25年1月現在、万博会場ではたくさんの労働者が働いている。とある建設労働者の証言。「変な虫がいっぱいおるで。作業服の中に入ってくるので、難儀してんねん。あんなとこに森なんか作るからや」。ここは元々、ゴミの処分場なのだ。諸外国からコンテナに乗ってやって来る害虫、害獣に加えて、「原住民」であるトコジラミやダニ、ハエや蚊、ハチなどにとって「静けさの森」は絶好のオアシスである。



24年8月、中学生と高校生に限って「万博ツアー」が行われた。日本中学生新聞を発行する川中だいじさんが抽選に当たって参加したが、出発前に気温を測ればなんと50度超え！　さらに彼は長袖長ズボンにサングラスという出立ちだった。「暑いのに、なぜそんな格好で？」と尋ねると、万博協会から「ヒアリに刺されないように長袖長ズボンで来ること」という指示があったからだという。参加した中高生は酷暑の中、フラフラになっただろう。よく熱中症にならなかったものだ。

開催中はさすがに殺虫剤などで駆除していくだろうが、「害虫がいて、殺虫剤が噴霧されているような場所」に、子どもを連れて行っていいのだろうか？　私たちに何ができるのか？　やはり「行かないこと」だろう。

## 行ってはいけない　その3　落雷

ジリジリと照りつける太陽によって海面や地表が温められ、水蒸気が上昇し積乱雲が発達する。やがて雷鳴がとどろき、豪雨と共に雷が落ちてくる。通常の都市では周囲に高いビルがあって、雷はそ

長袖長ズボンで完全防備の川中だいじさん

の避雷針に落ちてくれるから人的被害はない。しかし夢洲には高い建築物はない。地盤が緩いゴミの島なので、高いビルは作れない。建てれば沈むからだ。パビリオンはほとんどがプレハブで、一番高い構造物は大屋根リングになる。

雷雨は突然やってきて雷は大屋根リングに落ちる。避雷針は？「リングの手すり」だそうだ。（24年11月22日、藤永さんが視察した際の国交省職員の説明）えっ、手すり？　金属の？

「ビリビリきますやん？」質問する藤永さんに「ビリビリきません。雷が落ちそうなときは、すぐに来場者を下に降ろします」との回答。

一周2キロの大屋根リング、階段は8ヶ所。1日平均15万人来ているとすれば大屋根リングに上っている人も万単位の数になる。すぐに全員を避難させることができるのか？　高齢者や障がい者もいるだろうし、乳幼児もいる。ゴロゴロと雷鳴が鳴る中、みんなが8ヶ所の階段に殺到すれば事故が起きる可能性が高い。落下する人が出たり、将棋倒しになったりしても不思議ではない。豪雨と共に強風も吹いている中で、来場者は「手すり＝避雷針」をつかむのではないか？

無事に1階に降りたとしても、まだ危険が残る。気象庁のホームページによれば「高い木の近くは危険ですから、最低でも2m以上は離れてください」とある。大屋根リングは木造で、柱はすべて「高い木」である。木に落ちた雷が幹を伝わって降りてくることがあるからだ。整理する。①雷雨は短時間で発生する。②おそらく大屋根リングに落ちる。③階段が8ヶ所しかないので全員が避難することができるのか？　④避雷針が手すり。⑤1階に降りても木のそばは危険。どうしたらいいのか？



やはり「行かないこと」である。

## 行ってはいけない　その4　メタンガスなど

24年3月、グリーンワールド地区のトイレ建設工事中にガス爆発事故が起きた。「ビックリした。かなり大きな音だった」「死者が出ず、ケガ人もなかったのは奇跡」。テレビのインタビューに現場労働者が答えている。私は過去にこの現場を取材している。このグリーンワールド地区は夢洲1区に位置していて、万博工事前の19年9月、特別に許可をもらって中に入ったのだ。

1区は生ゴミを埋めた管理型ゴミ処分場で、最も危険な「立入禁止区域」だった。常にメタンガスが出て来るので、79本（当時）の煙突でメタンガスなどの有害ガスを大気中に放出しなければならない。ここをコンクリートで覆い、駐車場とレストランにする。爆発はそのトイレ工事中に起きた。コンクリートで蓋をしてしまえばその下にガスが溜

**19年9月、特別に許可を得て夢洲1区を望遠で撮影。ここは人が入ってはいけない区域だった。**

まる。溜まったガスに溶接の火花が引火して大事故になった。当然の帰結。

当初、万博は2区のみで開催だった。2区は川底をさらえた浚渫（しゅんせつ）土砂や建設残土で埋まっている。百歩も1万歩も譲って「夢洲での開催」に同意したとしても、それは2区に限るべき、であった。1区のグリーンワールドだけは避けなければならない。何しろここにはPCB袋が約3千袋、生ゴミの焼却灰、水銀や六価クロム、ダイオキシンが埋まっている場所。地中からはメタンガスだけでなく、有毒の一酸化炭素や硫化水素などが常に噴き出している超危険な場所なのだ。ではなぜ計画を変更して1区開催になったのか？

その答えは大屋根リング。当初予定に

**工事中にガス爆発があったのはココ！**
（出典：万博協会、爆発か所など筆者が加筆）



なかったあの約344億円もするリングを作ったから、場所が足りなくなって1区を使わざるを得なくなった。万博協会は事故を受けて、開催期間中は「本日のメタンガス濃度を発表する」と言う。5％を超えれば爆発の危険があり、1・5％を超えれば退避しなければならない。メタンガス対策、つまり換気装置やガス検知器などの設置で、さらに30億円超の追加予算を組んだ。もうアホの極み。ガス爆発事故の直後に吉村は「2区では出ません」と言い切った。現実は2区でも出ている。2区は生ゴミではないが、川底のヘドロで埋まっている。有機物が入っているところでは必ずメタンガスが出る。1区ほどではないが2区の「リングの内側」も危険なのだ。

さらに危険なことがある。それは維新と協会の「ウソ、隠蔽体質」。万博協会が外国パビリオンの責任者に爆発事故を報告したのは2ヶ月後。ポーランドやノルウェーの責任者は「なぜもっと早く言ってくれないのか。命に関わることではないか」と憤っていた。こんなことだから外国も撤退する。ちなみに硫化水素は大気より重いので下にたまる。大量に吸い込んでしまえば死亡する。子どもは身長が低いので大人よりたくさん吸い込んでしまう。こんなところに行かせていいのか？　私たちはどうすべきか？　それは「行かないこと」である。

## 行ってはいけない　その5　帰宅困難、下手すれば野宿？

夢洲へのアクセスは橋とトンネルだけ。朝9時の開幕にあわせて大阪市内から地下鉄に乗る。朝